

科研費申請書作成の手引き

2019. 9

CGS 研究支援部門 外部資金獲得専門部会

はじめに

この手引きは、本学の教員が科研費の申請書を作成する際の参考とするために作られたものです。

科研費応募の鉄則は、

- 1 分野の選定
- 2 公募要領・申請書の但し書きをよく読む
- 3 視線を誘導して読みやすい書類を作る
- 4 適切な予算計画を立てる

ことにあります。

ここにあげた4つの原則は、いずれの分野での申請にも通じることですが、細かいテクニックにかんしては、分野ごとの特徴があります。ここでは、かなり一般的な話をしますが、それでも、基本的には、社会科学系(経済学, 経営学), あるいは理系分野に共通する方法です。歴史系(学説史を除く)や法律系は、伝聞情報を中心に適宜付け加えるという形でお話したいと思います。

まず、第一に念頭においておく大原則は、

科研費はたとえ「萌芽研究」であっても、まったくの新規研究が通ることはない

ということです。オリジナリティや新規性をうたっておきながら、詐欺のような話ですが、これが現実です。仕方がありません。この一文を念頭に置きながら、具体的な申請に進んでいきましょう。

1 戦略的に分野を選択する

科研費申請の最初にやらなければならないことは申請する分野の選定です。科研費の予算システムは、常に実績主義で前年度に多くの応募があった分野は予算配分が多くなり、少なかった分野は削られ、だいたいどの分野でも平均すると30%程度の採択率になるように調整されています。ですから、「穴場」はほとんどありません。分野選定の基本は、

1. 前年度の申請数を確認する。
2. 自分がその分野での業績があるかどうかを確認する。
3. 自分がその分野の学会に入っているかどうかを考える。

3. にかんしては、基盤 C や若手研究ではあまり問題になりませんが、基盤 B 以上になるとその分野で採択される数が非常に少なくなるため、審査委員の多くを占める学会の影響力が強くなります。ですので、基盤 B 以上になると、その分野の人が前年度に、その科研費を取っているかどうか重要な要因になります。

だからと言って、まったく知らない分野に出すことはかなりリスクです。先にも説明したように、まったく新規の研究は、採用されることはほとんどありません。さらに、このリスクは、申請分野ごとに違いがあります。たとえば、挑戦的萌芽、若手は、比較の実績がなくても通りやすいのですが、基盤研究以上は、分担者がその分野の学会に所属していないとか、寄せ集め感がある場合には評価が低くなります。

若手研究の対象範囲にいる人は、若手研究に出すこと。研究業績が少なくても不利になりませんし、採択率は基盤研究が27%前後であるのに対して、40%近くあり予算も増額される傾向にあります。

学振の公式見解では、できる限り前例のない挑戦的な研究にお金を付けたいと、なっていますが、実際に審査するとき、その研究が計画年度内にきちんと完成するのかがポイントになりますので、過去の研究実績は重要なのです。

2 公募要領・申請書の但し書きをよく読む

(1)公募要領は毎年変わる

公募要領の変更は、制度上の改変、審査委員からの要請、不祥事防止など重要な意味が込められている可能性があります。その意味で、過去に科研費を取得できた人でも、公募要領を毎年読み直す必要があります。令和2年度もまた変更されました。

(2)評価者が求めている情報は全て書く。

たとえば、基盤研究の審査委員の手引きは、次のようになっています

平成27年度版科学研究費助成事業第1段審査(書面審査)の手引 p.18

(1)研究課題の学術的重要性・妥当性(「研究経費」,「研究目的」欄など)

- ・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究構想や研究目的が具体的かつ明確に示されているか。
- ・応募額の規模に見合った研究上の意義が認められるか。

(2)研究計画・方法の妥当性(「研究計画・方法」,「研究経費の妥当性・必要性」欄など)

- ・研究目的を達成するため、研究計画は十分練られたものになっているか。
- ・研究計画を遂行する上で、当初計画どおりに進まないときの対応など、多方面からの検討状況は考慮されているか。
- ・研究期間は妥当なものか。
- ・経費配分は妥当なものか。
- ・研究代表者が職務として行う研究、または別に行う研究がある場合には、その研究内容との関連性及び相違点が示されているか

審査委員は、「手引き」において、この要素をチェックすることを求められています。これらを意識して書かれていない申請書は評価が低くなります。逆に、これらの評価基準を満たして初めてオリジナリティなどが評価されると考えて良いでしょう。

3 実際に書いてみる

ここからは実際に申請書を書いてみる時に気をつけることを述べていきましょう。

(1) 研究目的・研究方法など

研究内容で重要なことは、これからやり始める研究ではなく、これまでやって来た研究の継続でなければならないということです。「萌芽研究」ですら、本当に萌芽であれば通りません。「これまでの研究で、成果が出る見通しがついていて、後はお金が付きさえすれば完成する」ということを匂わせるような書き方にすることが必要です。

- ファンドの申請と割り切ってこだわりを捨てることも必要です。実際には、終了年度までに、完成できない問題が残ると思っても、「完成できる」と言い切ることも必要です(たとえ、誠実であっても自信のなさを見せるのは論外)。
- 研究目的の中の「学術的背景」を書きすぎる人が時々見られます。論文であれば、その学術的意義を強調するのは必須ですが、申請書では「研究目的・研究方法」の欄は、基盤 C で 3 ページ、基盤 B でも 4 ページしかありません。「研究目的」は具体性を持たせましょう。リサーチクエッションが明確でない申請書は評価が非常に低くなります。その重要性、緊急性に加え、この研究で何がわかるのか仮説段階でもいいので書いておきます。
- 「とりあえずこんなことをやってみたいと思います」的な表現は避けましょう。申請書は「思考のプロセス」を書くところではありません。
- 研究方法にかんしては、初年度の研究方法・計画を重点的に書きます。初年度の方法に、可能な限り具体性を持たせないと、研究準備が整っていない、と思われる危険性があります。
- いきなり初めての研究をするかのような記述は避けましょう。やりがちなのは初年時に「文献を読み込む」といったことを書いてしまうことです。繰り返しますが、科研費は準備の終わっていない研究にはほとんどつきません。
- 参考文献を最後にきちんと付けるべきかどうかは、意見が分かれるところです。たとえば、文中で”Hayek(1932)”と書くだけで、文献リストを付けなくても採択されている申請書は多々あります。

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領113頁参照）を参考にすること。

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、について具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

「(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか」

- この(1)(2)(3)は、必ず書きます。
- 「学術的背景」は半ページ程度にまとめることが必要です。その際に、そのテーマの学界での動向と自分がその分野でどのような研究を進めてきたかの両方を書かなければなりません。
- 「(1)研究課題の核心をなす学術的「問い」というのは、当該研究分野で未解決である課題のことを指します。「〇〇という点は検討されてきたが、いまだ結論が出ていない。」といったことを書いていきます。研究目的と区別が付きにくい場合は、それぞれを別の項にして、違いを明示することも一つの方法です。
- 「(2)本研究の目的」は、「学術的な問い」とは異なり、研究計画の中で具体的に何を解決するのかをはっきりと書きます。単に「～を検討する」、検討してどうするのか。
- 「学術的独自性と創造性」が一番重要です。この研究計画を実行する意義を具体的に書きます。ただし、大言壮語する必要はありません。自分の研究分野で、この研究を進めると何ができるようになるのか、他の研究の発展に寄与するのかを具体的に書いていきます。
- 「(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか」も具体的に明確に書きます。研究計画なので、初年度には何をするのかを具体的に1ページ以上を使って書きます。共同研究の場合は、代表者・分担者の役割を明示します。
- 研究方法を書く場合、何をどうやって調べるのかに具体性を持たせます。単に「アンケートを行う」ではなく、「〇〇という課題を調査するために、××というアンケートを」という形で、「方法」と「目的」をセットにして書きます。
- 「概要」は、本文中から抜き出して書いた方がいいこともあるので、全部の書類を埋めてから書きます。この場合、本文と同じ流れ(「研究の背景」→「研究の目的」→「研究の展開」)で書くといいでしょう。
- 概要の中では、専門用語はなるべく使わずに(2語以下が目安)
- 論文や学会発表の予定は、「計画」には入れません。

(2)着想に至った経緯など

2 本研究の着想に至った経緯など

本欄には、(1)本研究の着想に至った経緯と準備状況、(2)関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、について1頁以内で記述すること。

- (1)は「本研究の着想に至った経緯」と「準備状況」を分けて書きます。
- 着想に至った経緯が、あまりに一般的すぎると申請者のオリジナリティを疑問視されることとなります。過去の失敗した事例でもいいので、個人的な経験と疑問点を入れて書きます。
- 「準備状況」は自分の過去の研究で予備的・関連する研究の成果があれば、それを中心に書きます。
- 「(2)関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ」は、まず学界で十分に研究が進んでいないことを示し、その後、どのようにこの分野の研究に貢献できるかを書きます。

(3)応募者の研究遂行能力及び研究環境

3 応募者の研究遂行能力及び研究環境

本欄には応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

- 「これまでの研究活動」に関しては、関連する研究成果を、論文、学会発表、研究助成（科研費や民間助成等）をリスト化して示すといでしょう。当該テーマに近いテーマの研究成果を示し、自分に研究計画を遂行する能力があることを最大限示します。
- 「研究環境」は、文系ではあまり多くはありませんが、資料、文献、これまで集めたデータ等が充実していることを示します。もし、十分でなくても、ネガティブなことを書いてはいけません。「〇〇が不足しているので、本研究計画で整備する」といったことはここでは書きません。
- 若手の研究者でありがちなのは、「この分野の権威の〇〇先生の指導を仰ぐ」的な記述です。実際にアドバイスをもらうにしても、本人の研究遂行能力を疑われますので書かないようにしましょう。

(4)研究業績

- 平成31年度申請から、研究業績欄がなくなりました。前出の「応募者の研究遂行能力」の欄に業績を書き込む他、査読者には Research map の閲覧が可能となりました。この機会に Research map の登録をしておきましょう。

予算の作り方

- 一番重要なことですが、科研費の申請書類は単なる研究計画書ではなく、国から資金を提供してもらって行う研究の計画書です。使われる予算は研究計画と明確に結びつけられていなければなりません。科研費は例えば、500万円上限の基盤Cに控えめに100万円申請したからといって、通りやすいわけではありません。むしろ、500万円上限いっぱい申請しても適切な使われ方であれば採択されます。
- 単に「パソコンが欲しいから」、「タブレットが欲しいから」が透けて見えるような書き方はやめましょう。パソコンが必要な場合も、「計画年度のこの段階に来たときに、この試行を行うために高性能のPCが必要」という形で書かなければなりません。調査用のノートパソコンにしても、研究計画のこの準備が整ったので調査を行う、という形式で書きましょう。

特に文系の場合は、コンピュータ類は汎用性が高く、当然すでに持っているものと考えられることが多いので、申請書にはあえて書かない方がいいでしょう。科研費の用途変更は50%までは申請無しで認められているので、申請書では例えば「経済学関連書籍」と書いておいて、採択されてから用途変更してコンピュータを買えばいいでしょう。
- そのため最終年度で設備・備品を購入するのはあまり勧められません。最終年度は、計画が遅れたときの調整、まとめと公表を中心に計画を書く方がいいでしょう。
- 旅費は、「研究計画」と組み合わせて、行き先を具体的に書きましょう。「ドイツで調査をする」ではなく、「ベルリンにある〇〇大学図書館にある××文書の調査を行う」あるいは、「〇〇県にある××社営業部の□□氏にインタビュー協力に応じてもらえることが決まっている」と書きましょう。科研費は、公式にも「予定の変更は当然である」と認めています。計画書に書いた通りに実行されなくても研究上の正当化ができれば問題ありません。

4 読みやすい書類を作る

(2) 下線と太文字を使って視線を誘導する

科研費の審査委員は通常 20～150 の申請書を 1 ヶ月程度の審査期間で読まなければなりません。したがって、一つ一つの申請書にじっくり目を通してはできないと考えられます。そこで、ポイントに下線を引き、キーワードは太字で強調して、そこだけ読んでも理解できるようにしておきます。

- 図表はあまり大きすぎないように、右上に入れるのが良いと言われています。
- 箇条書きはうまく使うと冗長になるのを防ぐために有効ですが、使いすぎると言葉足らずになってしまって逆効果です。
- 文字サイズ等は **研究計画調書作成・記入要領** の指示に従ってください (主に 11pt 以上)。
- 行間はあけてもかまいません。MS WORD2017 であれば、[ホーム]→[段落]の[行間(N)]を「倍数」, [間隔(A)]を 1.1～1.2 ぐらいがいいと思います。

基礎研究 (B) (一般) 2

【1 研究目的、研究方法など (つづき)】

けられた。また主流派経済学とは異なる道を選んだネオ・オーストリア学派の中は、知識論と結びつけ、時間という「制約」の中で人間行為論の形成を試みている (O Driscoll Jr. and Rizzo, 1985)。

本研究計画のメンバーは、これまで帰納と演繹、経済学における哲学の役割などのテーマでチームを作って10年以上に渡って検討してきた。その結果、現実の経済現象のメカニズムを解明し、説明理論を構築するために時間概念の再検討が必要であるという結論に達した。

(2)研究課題の核心をなす学術的「問い」

しかし、これらの歴史上の経済学者たちの様々な試みにもかかわらず、経済学はいまだに時間概念を消化し切れていないと言いがたい。例えば、現代経済学において貨幣の交換媒体以外の帰納が明示的に取り扱われていないことに現れている。限定合理性の議論が導入された現在でも貨幣は、均衡が成立した瞬間に消滅するものでなく、貨幣そのものが実体を持った存在としては見なされていない。現代経済学においてさえ、時間は現在の選択を決定するための物理的な指標の一つに過ぎず、哲学的な考察が不足しているため、人あるいは社会にとって時間の経過が持つ意味を捉えられていない。

本研究計画では、歴史上の特筆すべき経済学者の時間の扱い方を分析しながら、その概念を生み出した思考や社会観、その概念が生み出す社会への影響を明らかにすることで、方法論の視点から、経済学へのより実証的な時間概念の導入を提案する。

(3)本研究の目的および学術的独自性と創造性

本研究計画は11人の研究代表者と分担者による共同研究である。基本的には各メンバーに担当する時代区分を割り振り、それを通史的な研究を平行させることで経済学史全体の中で各経済学者の位置づけを明確にする。しかし、ここでは、単に過去の経済学の中で時間の扱われ方を論じるのではなく、代表者・分担者が連携し、前後の時代の対象経済学の接続と断絶を意識して研究を進める。そして、経済理論や言説の中で時間の捉え方を通じて、その中に象徴される時代思想を解明する。

さらに本研究では、単に時間概念を扱うのではなく、因果性や貨幣、進化といった時間概念と密接なつながりのある経済学上の課題の観点から検討することで、過去の経済学だけでなく現代の経済学の中でも見過ごされた問題を明らかにした上で、経済学の方法に関する新たな地平を切り開くことを目的とする。

このように経済学史上の連続・非連続という機軸と経済学の普遍的な課題という機軸の2軸による検討が本研究課題の特徴である。経済学と時間にかんする通史的な研究は意外なほど少ない。類似の研究としては、Currie and Steedman(1990)が存在するが、これは包括的な研究ではあるが、限界革命以降に重点が置かれており、科学論や方法論に照らした研究ではない。経済学誕生以前から現代に至るまでの経済学を多角的に研究できるのは、これまで10年以上に渡って共同研究を進めてきたチームであるからこそ可能なものである。

方法論上の課題

分担	Smith (前期)	Smith, Priestley (中期)	Ricardo (後期)	Mathus (中期)	Wicksell (後期)	Keynes (前期)	ミコト (前期)	Hayek (前期)	Mark (前期)
因果性				因果性	因果性	因果性	因果性	因果性	因果性
貨幣				貨幣	貨幣	貨幣	貨幣	貨幣	貨幣
時間上の連続性				時間上の連続性	時間上の連続性	時間上の連続性	時間上の連続性	時間上の連続性	時間上の連続性
経済学上の取り扱い				経済学上の取り扱い	経済学上の取り扱い	経済学上の取り扱い	経済学上の取り扱い	経済学上の取り扱い	経済学上の取り扱い

18世紀 19世紀 20世紀 現代 経済学史

個人的な経験より1

- * 書類の作成方法は、実は選考委員の好みに左右されることが少なくありません。過去の例から言うと、
 - ・大量の文字情報を初めから読んでいくことを好む傾向がある。
 - 文学, 歴史系
 - ・図表や視線誘導を活用して、要領よく読むことができる書類を好む傾向がある。
 - 経済学, 経営学, 自然科学系

という傾向があるようです。ただし、近年、申請書の作成技術が向上しており、文学、歴史系でも、あまり詰めすぎて書くことは減っているようです。各分野ごとに確認してください。

(3) 読みやすい文章を書く

- ジャーゴン(専門用語等)は避ける
- 素人が読んでわかるように

以前本学におられた先生は奥様に読んでもらって理解できるか否かを基準にしてもらっていました。その人の採択率はほぼ 100%でした。

- 独りよがりにならない

巨大な図など凝ったことをしても読む方の印象を考えないものはだめ。

個人的な経験より2

近年、研究成果公開促進費の予算が半減されたのは、「データベースの作成」と称して大量の iPod を買うなどの不正が絶えなかったからだそうです。買った方の言い分としては、USB メモリーなどの大容量リムーバブルディスクの値段が高かった時代には、汎用性が高く、なおかつ大容量(当時)の iPod はバックアップメディアとして十分意味があったということらしいです。ですが、このような汎用性が高く、他の用途に使われる(むしろ、他の用途の方が中心になりかねない)品目への支出は、不正使用と見なされる危険性が高いようです。

経費見積については下記までお問い合わせください。

旅費 会計課会計係

(TEL:0134-27-5217 E-mail:zsoumu@office.otaru-uc.ac.jp)

謝金 会計課経理係

(TEL:0134-27-5219 E-mail:keiri@office.otaru-uc.ac.jp)

印刷費, 設備備品 会計課契約係

(TEL:0134-27-5220 E-mail:keiyaku@office.otaru-uc.ac.jp)